安心して暮らせる未来を

各地でメーデーひらかれる

中央メーデーin和歌山市

第84回メーデーが4月27日に県下6地域でおこなわれた。和歌山県中央集会では「平和」「人権」「労働」「環境」および「共生」をコンセプトとし「メーデーは働く人たちが主役。声をひとつに仲間を集めて、安心して暮らせる未来をみんなでつくろう」をスローガンに掲げ、和歌山市砂の丸広場でひらかれた。天候も良く、およそ6千人の各組合員が集まるなか、和歌山市ブロックからも約80人が参加した。和市ブロックでは、式典前に参加者に狭山事件のリーフレットを配布し、石川さんの無罪を訴えた。式典では連合和歌山の古谷・実行委員長からあいさつがあり、仁坂・県知事、大橋・市長から来賓あいさつがあった。ガンバロー三唱の後、労働環境の改善を求め「安心して暮らせる未来をみんなでつくるぞ」とシュプレヒコールを上げながら市役所周辺と和歌山城の2コースに分かれ、デモ行進をおこなった。

広場では、被災地の募金や各組合の模擬店、チャリティーバザー、ライブ、キャラクターショー、福引きなど、さまざまなイベントがおこなわれた。

シュプレヒコールをあげる和市ブロックの参加者

東牟婁メーデーin新宮 地域職業訓練センター

式典には200人が参加し、下田耕平・実行委員長から「政権交代で株価は上がっているが労働者に実感はない。経営側に寄り添った雇用の流動化をすすめようとしている。豊かさを実感でき、希望のもてる社会をつくろう」とあいさつがあった。

議事では「STOP THE 格差社会！　暮らしの底上げ実現」にむけた特別決議が確認され「メーデーは働く人たちが主役。声をひとつに仲間を集めて、安心して暮らせる未来をみんなでつくろう！」のスローガンと、台風12号豪雨災害の復興と再生、格差・貧困問題の拡大など、雇用の安定と格差是正の実現を働く者・生活者の立場から政策の実現を強く求めていくことを盛り込んだ「宣言」が採択され、ガンバロー三唱で団結を深めた。

式典の後には『ゆとり・豊かさフェスティバル』のイベントで各組合が8店の模擬店を出し、400人の来場者でにぎわい、北越紀州製紙のブースでは、幅5.5m、長さ15mの巨大な紙の上に乗って落書きをして楽しんでいた。

主張

闘いの歴史を問いなおそう

部落解放同盟第58回和歌山県連定期大会を5月17日にひらいた。この大会は、和歌山県水平社創立90周年を記念する大会であった。90年前の5月17日、和歌山市公会堂で結成された水平社は「徳川家」への抗議の意味をこめて「和歌祭り」の日にひらかれた。以降、燎原火のごとく次々と県下の被差別部落に水平社が結成された。

歴史と伝統から深く学ぶということは、解放運動がどのように闘われてきたか、を問い直すということである。水平社当時の運動は、遅れた意識のなかに「差別観念」が存在し、個人への糾弾闘争を展開してきた。しかし一向に差別事件はあとを絶たず、闘いの方向も社会に訴える方向へと変化していった。部落の生活実態は、厳しい状況におかれていた。そのなかで、部落解放委員会活動を提起し、各部落で「世話役活動」「相談活動」をすすめてきた。

戦後、新たに結成された部落解放委員会は、1951年に京都で雑誌『オール・ロマンス』の闘いを展開した。当時の京都市内の被差別部落の実態は、道路は狭く救急車が入れない、長欠や不就学、生活衛生面での差別実態、不良住宅、不安定就労など多くの課題が集中していることをあきらかにし、その実態を放置してきた京都市行政の差別性を追求し、差別撤廃がとりくまれるようになった。

翌年に発生した「西川県議会議員差別事件」のとりくみも、県下の差別実態をあきらかにし、行政の責任において解決を図る施策を求めてきた。このように部落にある「貧困」は部落差別の結果としてとらえ、全国的に運動が展開され、前進していった。その後、同和対策審議会答申、同和対策事業特別措置法制定へとすすんでいった。今日の解放運動は、共同、協同の闘いへと変化してきている。労働者、市民と部落の連帯、障がい者、高齢者、女性、子どもなどさまざまな人びとと協同したとりくみがすすめられている。その歴史と伝統を受け、現在の部落解放運動が存在することを忘れてはならない。

部落解放運動は新たな構築が求められ、自力自闘の「自主解放」の精神を基調として、差別を生みだす社会関係の改革・打破をめざし、各界各層の人たちとの「社会連帯」をもとめながら、部落から外へ打って出ようということである。

多くの先達が長い闘いのなかから築き上げた歴史と伝統から深く学び「すべての差別」の解決にまい進し、「よき日」をめざして新たな歩みをはじめなければならない。

企業紹介　喫茶「ピュア」

喫茶店で使用するお米を自然農法で育てる松本雅之さんが経営する喫茶「ピュア」。名前のとおり自然やパーマカルチャーを愛する店主は、お会いすると「ピュア」な心ですべてのものに向き合っておられた。喫茶の裏に新宝島レコード店を併設し、ゲームにのめりこむ子どもたちに本当の音楽をとの思いから、格安でレコードを提供する。ホッとする店内で出される食事はすべて自然からの贈り物だ。まず、「ピュア」で食してほしい。

和歌山市岩橋1349（紀伊風土記の横）
TEL 073-472-2685

ゆっくりとした空気が流れる店内

狭山事件を考えよう

私が狭山事件を知ったのは昭和40年頃の中学生だったときで、母によく話しをきかされていました。

石川さんが不当逮捕される前に吉展ちゃん誘拐事件があり、警察の捜査むなしく死体で発見され警察の真意が問われるなか、狭山事件が発生し色々な警察の失態があり焦りや部落民は何をするかわからないという偏見のもと、標的になった石川さんが逮捕されました。この不当な逮捕は人の人権、平等、尊さを無視した何者でもありません。

私も石川さんの無実を信じ闘う者の一人として、自分が石川さんであったらまた、石川さんの親であったら、兄弟姉妹であったらと思い本人の無念な気持ちを心にとめ運動していかなければなりません。石川さんと握手をしたときの手は、人間の温もりがあり力強い誠の信念を感じました。

今、われわれだけではなく多くの人たちが石川さんの無罪を確信し、運動に参加いただいており、マスコミもとり上げ報道しております。しかしながら、一向に再審がなされようとしないのが現状であり、証拠開示がされているなか、再審するに当たっての証拠は十分であると思われますが、なかなかできないのは大きく立ちはだかっている部落差別ではないでしょうか。

石川さんの無罪が確定すれば、今まで警察の言ってきた差別的な拷問といえる操作や証拠開示を渋った検察庁、また、国は部落差別を認めたことになるのではないでしょうか。

本年50年を迎えるのですが、他の50年とは違い石川さんや家族の方がたの50年は苦闘、苦難のひびであったであろうと思うと、私自身も、石川さんの自由をかちとるため、最後まで運動に参加させていただきたく思うのであります。

（岡田敏晴）

文化の窓

「弥栄のきずな」

「荒れた学校」として知られた京都市立弥栄中学校。さまざまな指導を経験し、たどりついたのは、将来の展望を描く参考になる身近な存在がいない生徒に必要なのは、信頼できる教師と仲間だということにいきついた人権教育。部落差別を受けるかもしれない言いようのない不安を消し去ってくれる教師や仲間との葛藤や衝突、自らの境遇を乗り越え、ひとつの人権劇が展開されるようすが記されている一冊。

■問い合わせは、県連教宣部まで
TEL 073-473-2301